

## V 畜産部の主要事業

# 1 需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立

## (1) 実需者のニーズに応える農畜産物の結びつき強化・生産拡大

### ① やまぐち和牛の生産拡大

長門地域は、県内の黒毛和種繁殖雌牛の約2割を飼養している主要な生産地帯であり、県を代表する能力の高い繁殖雌牛が飼養されています。また、関西圏へ出荷された肥育牛の牛肉は、高い評価を受けています。

長門市で生まれた「国峰花」号や「隆汐国」号をはじめとする優秀な県育成種雄牛の精液利用を推進し、地域の増頭と改良を進めます。

### ア ブランド力向上

#### (ア) やまぐち和牛生産総合対策事業(事業区分:山口の牛づくり推進)

○ 県育成種雄牛の精液利用促進

○ 種雄牛の育成

・ゲノム解析を活用した効率的な肉質・肉量の改良を推進すると共に、おいしさ(脂肪の質)に着目した種雄牛の育成を推進します。

○ 山口県和牛共進会への取組支援

#### (イ) 第13回全国和牛能力共進会に向けた取組強化

令和9年北海道で開催される共進会に向け、長門大津地区から選定した牛が県代表牛となり、本大会でも活躍できるよう取組を開始します。



県を代表する基幹種雄牛に選抜された「国峰花」号



次世代待機種雄牛「隆汐国」号

## イ 和牛生産の基盤整備

### (ア) やまぐち和牛生産総合対策事業（事業区分：増頭対策）

肉用牛の増頭と地域の資源循環を図るため、たい肥散布等を条件に畜舎の整備を支援します。

### (イ) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）

長門大津畜産振興協議会と連携して、機械導入による省力化及び増頭を推進します。

### (ウ) 新たなキャトルステーション稼働に向けた制度設計及び運営協議

令和3、4年度に体制を整備したキャトルステーションの継続及び、新たなキャトルステーション稼働に向け、長門市や関係機関・団体等と連携し、安心して牛を預けられる制度、運営体制構築を支援します。

### (エ) 畜産経営スマート化促進事業

本事業とIoT等活用農業推進事業（長門市）を活用し、畜産農家への先進機器の積極的な導入を図り、省力化やコスト低減を推進します。

### (オ) 県産飼料生産・利用拡大促進事業

輸入飼料価格高騰対策として、構築連携による自給飼料生産及び利用拡大を図り、畜産経営の負担軽減につなげます。



県事業を活用した畜舎の増築



キャトルステーション実証施設

## ② 肉用鶏の生産拡大

長門地域では約98万羽の肉用鶏が飼育され、県内の約7割を占める主要な生産地帯です。平成25年度に「長州黒かしわ」がやまぐちブランドとして登録されて以来、生産拡大及びブランド力向上を推進し、平成30年2月には初の海外輸出（香港）が行われました。

## ア ブランド力向上

### (7) 長州黒かしわのPR活動等の推進

長州黒かしわ振興協議会等を通じ、PR活動を継続的に実施します。

### (1) 長州黒かしわの肉質や利活用推進のための研究

農林総合技術センターと連携して、急速冷凍による鶏肉の高品質流通技術の開発や機能性成分含量調査等の研究を継続します。その成果の一つとして、令和4年2月から県内初の機能性表示食品（農林水産物・生鮮食品）として販売を開始しました。

## イ 肉用鶏生産の基盤整備

### (7) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）

長州どりブランド拡大協議会と連携して、鶏舎整備や機械導入による生産力向上を推進します。

### (1) 県産飼料生産・利用拡大促進事業

すでに利用が進んでいる飼料用米の増産と利用拡大によるコスト削減をはかり、地域一貫の肉用鶏生産体制をより強化します。

## (2) 防疫体制の強化

鳥インフルエンザや口蹄疫等の特定家畜伝染病の発生予防及び発生時における迅速な防疫対策のための体制を堅持します。

### (7) 防疫監視体制の強化

鳥インフルエンザや豚熱等の家畜伝染病の防疫監視体制を強化し、農場等における発生予防に取り組みます（飼養衛生管理基準の遵守指導など）。

### (1) 防疫演習の実施

生産者や職員、関係機関を対象として、鳥インフルエンザ等に関する防疫演習を行い、特定家畜伝染病発生時の初動防疫を確認します。

## 2 産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化

### (1) 農山漁村の持つ多面的機能の維持

畜産経営の省力化、耕作放棄地対策等を目的として山口型放牧を推進します。